

2024年10月21日 年間第29主日

マルコによる福音10章35～45節

さて、ゼベダイの子ヤコブとヨハネとがイエスのもとにきて言った、「先生、わたしたちがお頼みすることは、なんでもかなえてくださるようお願いいたします」。イエスは彼らに「何をしてほしいと、願うのか」と言われた。すると彼らは言った、「栄光をお受けになるとき、ひとりをあなたの右に、ひとりを左にすわるようにしてください」。イエスは言われた、「あなたがたは自分が何を求めているのか、わかっているか。あなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けることができるか」。彼らは「できます」と答えた。するとイエスは言われた、「あなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けるであろう。しかし、わたしの右、左にすわらせることは、わたしのすることではなく、ただ備えられている人々だけに許されることである」。十人の者はこれを聞いて、ヤコブとヨハネとのことで憤慨し出した。そこで、イエスは彼らと呼ばせて言われた、「あなたがたの知っているとおり、異邦人の支配者と見られている人々は、その民を治め、また偉い人たちは、その民の上に権力をふるっている。しかし、あなたがたの間では、そうであってはならない。かえって、あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、すべての人の僕とならねばならない。人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである」。

おはようございます。3分間の福音の分かち合いの奉仕をさせていただく札幌聖心のチャプレン聖心会の田口です。11月は出張のため、お休みをいただきますので、今日は少し長くお話させていただきます。

紅葉の美しい季節になりました。窓から見える山の紅葉が、日に日に模様を変えて行くのを眺めながら、人生の模様も同じようだと思い、古生物学者・地質学者のイエズス会士テイヤール・ド・シャルダンの言葉を思い出します。「人生とは、美しい刺繍を裏から見ているようなものだ。その模様が何を意味しているか、そのままでは分からないが、それを表から見られるようになったとき、その意味と美しさが分かる。」

今日の福音のヤコブとヨハネの生涯の模様は、イエスに魅せられて、すぐにすべてを捨てて従ったところから始まりました。そしていつもおそば近くにいることに幸せを感じていました。けれど彼らは、イエスを失望させてしまいます。ついこの間マルコ8章で、ペトロがイエスの生きようとする神様の愛を、理解できないで叱られたばかり、9章で弟子たちが、「誰が一番偉いか」と議論して、「先になりたい人は仕える人になりなさい。」と諭されたばかりなのに、また、いつもおそば近くにいるこの2人が、イエスのお考えとは全く違うことを言いだ出したのです。

イエスの奇跡が人々を熱狂させ、自分たちも弟子ということで、特別な存在になったように感じた時に、単純に「いつもイエスと共にいたい」との願いの内容が変わったのかもしれない。イエスは、イスラエル民族に華々しい栄光をもたらす存在であると思い、その栄光にあずかりたいと願うようになったのでしょうか。

しかし、イエスが神様から与えられた杯は、人の体験するあらゆる苦しみを、自ら受け

入れ、体験し、どん底まで下りて行って、人がどん底の時も、「決して一人ぼっちではない」ことを伝える神の愛を生きることでした。イエスの栄光は、人の味わうあらゆる痛みを体験した受難と十字架の死でした。その十字架の右と左には盗賊がいたことを想うと、この2人の兄弟の願いがいかに的外れであったかがわかります。

実は「私もこの2人と同じではないか」と考えると、恐ろしくなってきます。日々「イエスと共にいたい」と願っています。でも十字架のもとには立ちたくないのです。先日も「どうしたら、今日あなたに会えますか」と祈りの中でイエスにうかがうと、本一冊でも手放したくない私に「手放しなさい。」とおっしゃいました。ため息です。

でも、ヤコブとヨハネの、イエスと共にいたいとの願いはほんものでした。「どうやら、イエスの栄光は自分たちの考える栄光とは違うらしい」と霧が晴れるようにおぼろげにわかって来ても、それでもなお、イエスに従って行きました。

イエスは自分が来たのは、仕えるためであり、自分の命を与えるためであると言われます。今日の福音の核心はこれです。S.ファウスティは、「イエスが自分自身を言い表す言葉の中で、もっとも素晴らしい表現がこれだ。イエスが何のために来たのか、わたしたちとともにいる意味は何かを、短い言葉で説明し尽くしている。」と言っています。

イエスの栄光は、人の味う苦しみを自らも体験する神の愛を伝えることでした。人は自分の苦しみが理解されていると知る時、「決して一人ではない」と知る時、力が湧いてきます。この力は、得ようと思って得ることはできません。この力は、「イエスが私の味わった苦しみを知って、ともに味わっておられる、何も苦しむ必要がなかったのに、私の傍にいたいのために、その痛みを、うめきながら体験された」と知ることで湧いてくる力です。

いつヤコブとヨハネが、イエスの言葉を正しく理解するようになったのでしょうか。イエスの十字架の死と復活により、聖霊によって、「仕えるために来た」「命を与えるために来た」とおっしゃるイエスの想いが、2人に届いた時、その心の目が開きました。

そして2人が生涯を終える時、そこに現れた模様は、仕えるために、そして自分のいのちを捧げるために来られたイエスの生涯の模様と、重なっていったのでしょうか。

私たちの生涯の模様も、やがてイエスの生涯の模様に、ぴたりと重なっていきますように祈り合いましょう。ありがとうございました。

Tháng Mười 20, 2024 Mác 10: 35 ~ 45

Teilhard de Chardin nói: "Cuộc sống giống như nhìn vào một bức tranh đẹp từ phía sau. Bạn không biết hoa văn có ý nghĩa gì, nhưng khi bạn có thể nhìn thấy nó từ phía trước, bạn hiểu

ý nghĩa và vẻ đẹp của nó. Hẳn nói. Giacôbê và Giăng không hiểu gì về thập tự giá của Chúa Giêsu, nhưng khi Chúa Thánh Thần chạm đến trái tim họ bằng những lời của Chúa Giêsu, "Ta đến để ban sự sống", mắt họ được mở ra. Và khi hai người họ kết thúc cuộc sống của họ, mô hình xuất hiện ở đó dần dần thay đổi để nó trùng lặp với mô hình cuộc sống của Chúa Giêsu. Chúng ta hãy cầu nguyện để khuôn mẫu của cuộc sống chúng ta sẽ dần dần trùng lặp với khuôn mẫu cuộc sống của Chúa Giêsu.

Mark 10 : 35 – 45

Teilhard de Chardin said, " Life is like looking at a beautiful embroidery from the back. You don't know what the pattern means as it is, but when you can see it from the front, you understand its meaning and beauty. "The pattern of life for James and John started when they met Jesus for the first time and wanted to follow Him. Gradually their longing to follow Jesus changed the meaning to seek glory. The glory of Jesus was to be with people by experiencing the Passion and the death of the Cross, where he experienced every kind of pain one could taste. Through the spirit they were transformed and when the two men finished their lives, the pattern that appeared there must have overlapped with the pattern of Jesus' life. Let us pray so that the pattern of our lives will gradually overlap with the pattern of Jesus' life.